

法医学における若年性突然死症例の遺伝子解析

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者もしくは代諾者（ご家族）の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究対象者の通常の検査等に不利益が生じることはありません。

研究課題名	法医学における若年性突然死症例の遺伝子解析
倫理審査受付番号	第 倫ヒ0442号
研究期間	2020年 9月倫理審査承認日～2026年 3月31日
研究対象情報の取得期間	下記の期間に、法医学で検案・解剖となられた方とご家族（ただし第倫ヒ0370号の研究において他の研究への使用の同意の得られていない方を除く）、共同研究機関から相談・紹介となられた方とご家族 検案日・解剖日および相談・紹介受付日： 2005年 1月 1日～2026年 3月31日
研究に用いる試料・情報	試料等、カルテ情報
研究概要	（研究目的、意義） 1889年にPaltaufは、リンパ装置の肥大ならびに胸腺の肥大を呈するものを「胸腺リンパ体質」とし、その急死の死因は心機能障害にあるとしました。我々は、これまでに若年性突然死症例において心疾患関連遺伝子

のRyR2、KCNQ1、KCNH2およびSCN5Aについて解析し報告しており、そのうちRyR2のvariantを有するものの中には胸腺肥大等が認められ、胸腺リンパ体質を髣髴とさせる症例もありました。このときに行った遺伝子解析は特定の個々の遺伝子をターゲットにした解析であり、そのほか数多ある疾患関連遺伝子については解析されていません。

本研究では、次世代シーケンサーによって網羅的に遺伝子を解析することによって、胸腺肥大等の解剖所見と突然死との関連を検討します。

遺伝子解析によってもたらされる結果は突然死の予防につながることも期待でき、社会医学としての役割を果たすものと考えます。

（研究の方法）

本学法医学で検案及び解剖時に採取された試料および共同研究機関から提供された試料等を、次世代シーケンサー等を用いて遺伝子を解析します。

（外部への試料・情報の提供）

本学法医学で取得しました試料・情報（遺伝子結果を含む）を外部へ提供することはありません。共同研究機関より相談・紹介となられた方の遺伝子解析結果は、相談元・紹介元の共同研究機関にのみ提供します。

（研究組織）

兵庫医科大学法医学

大阪医科大学法医学、香川大学法医学、神戸大学法医学

（個人情報の取り扱い）

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

本研究に関する 連絡先

兵庫医科大学 法医学講座

主任教授 西尾 元（研究責任者、研究担当者）

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

TEL | （平日） 0798-45-6577